

区自治協議会(第5期)を振り返って  
～成果と課題～

新潟市区自治協議会会長会議

平成 29 年 3 月 15 日

## はじめに

政令指定都市移行と同時に区自治協議会が設置されて10年が経過し、第5期が終わろうとしています。近年、人口減少・少子高齢化、生活様式の多様化、コミュニティの希薄化など、地域をとりまく環境が大きく変化していることに伴い、安心安全や福祉など地域が抱える課題はますます多様化・複雑化しています。

第5期では、地域の課題について審議する場である区自治協議会に、これまで以上に福祉や教育などの専門的な知識を有する地域人材に参加していただくため、各区の実情に応じて、より柔軟に委員構成を決定できるよう見直しを行いました。これにより、区自治協議会の活性化、ひいては地域課題の解決につながると考えています。

また、地域課題を解決していくためには、地域団体同士、地域団体と区自治協議会が、さらに連携・情報共有を深めていくことが求められています。これまで以上に地域代表としての役割を果たせるよう、委員の心構えを示す文書を会長会議一同名義で発出するなど、委員の意識啓発を行いました。

今後も、区自治協議会の活性化につながるような取組が進み、より多くの地域課題が解決されることを期待しています。

本資料では、第5期の各区における活動の取組内容・成果と課題をまとめ、巻末には、全市の取組内容と課題を記載しました。これからの区自治協議会における活動の一助となれば幸いです。

結びに、区自治協議会委員として、住民自治の推進にご尽力いただいた今期250余名の委員の皆さまに感謝を申し上げます。

**新潟市区自治協議会会長会議**

**座長 豊岡 克**

## 目次

北区自治協議会	1
東区自治協議会	7
中央区自治協議会	13
江南区自治協議会	18
秋葉区自治協議会	23
南区自治協議会	28
西区自治協議会	34
西蒲区自治協議会	40

# 北区自治協議会(第5期)を振り返って

北区自治協議会会長 山崎 敬雄

## 1 はじめに

第5期目の北区自治協議会は、第4期から引き継がれた地域課題と今後の北区の未来を見据えた検討や活動を丁寧に行ってきました。

最初の大きな課題は、合併後の懸案事項となっていた区役所新庁舎の建設位置問題からでした。「北区役所新庁舎整備特別部会」を設置し、委員の皆さまから様々な意見をいただきながら審議を重ね、平成27年度に「北区役所新庁舎整備候補位置に関する意見書」として取りまとめ市長に提出することができ、新庁舎の建設に向けた一助となったと思っております。

また、このほか各部会において、検討を重ねてきた内容を整理しまとめ、平成28年度には、「福島潟のラムサール条約登録に向けた取組推進への要請書」や「認知症対策についての提言書」、「がん検診などの受診率向上対策についての提言書」を市長に提出し、地域が行政と協働しながら各課題の解決に向け、必要とする取組について提案することができました。

区自治協議会提案事業では、各事業について関連する部会で活発な議論を行い、教育、広報、防災、公共交通分野にわたり、平成27年度に3事業、平成28年度に3事業を実施しました。事業の実施にあたっては、事前に全体会で情報共有を行うなど、北区共通の課題として委員間で意識を高め合いました。

全体会や部会では、それぞれの委員が専門性をいかしながら活発な意見交換を行うことで委員間の信頼を深めたり、問題意識を高めたりしてきました。課題解決に向けた継続的な取組を行うため、新発田市の新庁舎及び駅前複合施設の視察や、農家レストランの視察・交流会なども行いました。

このような北区自治協議会の役割や活動を、区民の皆さんに身近に感じていただき、さらに一緒に考えてもらおうと、「地域と行政をつなぐ～北区自治協議会だより」は、附属機関としての役割を意識しながら、見やすさを心がけて制作しました。

この活動を次の第6期北区自治協議会にも引き継いでいただくため、第5期の詳細な活動成果や課題などについて報告します。

## 2 取組内容・成果

### (1) 本会について

#### ア 地域課題の解決策等について市長へ要望書等を提出

地域課題を解決するため、専門部会及び特別部会を設置し、課題の把握、

整理、分類を行い、以下のとおり、提言や要望を行いました。

- ・北区役所新庁舎整備候補位置に関する意見書(平成 27 年 10 月 30 日付)
- ・福島潟のラムサール条約登録に向けた取組推進への要請書(平成 28 年 9 月 15 日付)
- ・認知症対策についての提言書(平成 28 年 9 月 15 日付)
- ・がん検診などの受診率向上対策についての提言書(平成 29 年 2 月 16 日付)

## イ 北区自治協議会委員視察研修会の実施

北区役所新庁舎建設や子どもの貧困など、以下のとおり時期に合った課題を取り上げ、講演会の参加や視察研修を行い、実際に目で見て触れることで、課題を身近に感じ、取組につなげることができました。

- ・平成 27 年度北区地域福祉推進フォーラム基調講演・シンポジウム参加
- ・第 4 回新潟医療福祉大学・北区地域連携推進フォーラム参加
- ・イクネスしばた 新発田駅前複合施設／農家レストラン ラ・トラットリア エストルト(高儀農場)視察研修と交流会
- ・新発田市役所(ヨリネスしばた)新庁舎視察研修

## ウ 「地域と行政をつなぐ～ 北区自治協議会だより」の発行(4 回発行)

北区自治協議会の認知度をさらに広め、区民の皆さんに身近に活動を感じていただくため、事業などの紹介のほか、委員の顔や思いを掲載することで関心を持ってもらう工夫をしました。

- ・平成 27 年度 第 11 号、第 12 号、平成 28 年度 第 13 号、第 14 号(総集編)

## (2) 部会について

### ア 地域・環境部会

#### ○福島潟のラムサール条約登録に向けた取組

佐潟や北区内の湿地の視察研修やビュー福島潟の指定管理者及び大熊名誉館長、さらに新潟県地域振興局との懇談による勉強会を実施し、市長への提言書を取りまとめました。

#### ○区自治協議会提案事業内容の検討と実施

- ・夏休み子ども交流事業(平成 27 年度)
- ・北区夏休みこども公共施設利用体験事業(平成 28 年度)

### イ 産業振興部会

#### ○遊休農地を活用した農業振興

葉タバコの廃作地を活用した特産品「シルクスイート」の生産拡大について、検討し、部会から 2 名が北区特産物研究協議会 WG メンバーとし

て参加しました。同協議会主催では、オリジナル名称を公募し、北区産さつまいも名称選考会の委員を部会から選出しました。名称に決定した「しるきーも」は、作付面積が拡大され、北区内の多くの菓子屋で、「しるきーも」を使った美味しいスイーツが販売されるようになりました。

#### ○自治協議会提案事業内容の検討と実施

北区の自然景勝地や歴史スポットのほかに、北区産の農産物について取り上げ、北区の食の魅力等を動画により紹介しました。

- ・北区プロモーション事業・「食」編動画配信(平成 27 年度)

北区プロモーション PR 映像を 7 本制作(1 本 3~7 分間程度)

#### ○人口減少対策

子育て中の方々が住みやすいと思うまちづくりに向けて、子育てサークルとの意見交換やアンケートを実施し、要望などをとりまとめ、全体会に報告しました。

### ウ 教育・文化部会

#### ○区自治協議会提案事業内容の検討と実施

- ・平成 27 年度 食育講演会、平成 28 年度 命の教育講演会

#### ○第 4 期に提出した「北区郷土博物館の充実に関する意見書」の検証

第 4 期で市長に提出した「北区郷土博物館の充実に関する意見書」に基づく取組内容を確認するため、展示内容等のリニューアルが行われている北区郷土博物館と関連施設について、現地確認を行いました。

### エ 福祉・安心部会

#### ○災害時の避難誘導について

海水浴場・海辺の森など市内外から多くの人が集まる場所に訪れた人が、災害時に速やかに安全な場所に避難できるような方策について検討を重ね、自治協議会提案事業につなげることができました。

#### ○認知症対策について

いかに効果的に行政などの情報を市民に伝えるか、また、認知症の人や介護する家族の負担を軽減する対策で不足しているものがないかを検討し、市長への提言書を取りまとめました。

#### ○がん検診などの受診率向上について

北区内の各種検診データなどを検証し、意識啓発、PR の見直し、検診場所などについて具体策を検討し、市長への提言書を取りまとめました。

#### ○区自治協議会提案事業内容の検討と実施

- ・地域防災力向上事業(平成 28 年度)

### (3) 提案事業について

## ア 平成 27 年度提案事業

### ○夏休み子ども交流事業

夏休み期間中における区内の公共施設の事業等を通じ、北区内の子どもたち(小中学生)の交流を図ることを目的としました。その移動手段として、北区内の小学校周辺と葛塚地区の公共施設を結ぶバスを運行しました(一部地域を除く)。

- ・運行期間 平成 27 年 7 月 24 日～8 月 22 日うちの 19 日間
- ・マイクロバス(27 人乗り) 2 ルート運行
- ・のべ利用者数 約 600 人

### ○北区プロモーション事業・「食」編

北区の自然景勝地や歴史スポット、北区産の農産物について取り上げ、北区の食の魅力等を動画により紹介しました。北区の「食」の魅力を紹介する内容の動画を制作し、新潟市ホームページ新潟シティチャンネル(YouTube)で公開しています。また、北区役所新館 1 階ロビーの広報用モニターやケーブルテレビ(NCV コミュニティチャンネル)でも放映されており、インターネット配信だけでなく、他の媒体でも北区の魅力を PR することができました。

- ・北区プロモーション PR 映像を 7 本制作(1 本 3～7 分間程度)
- ・制作 国際映像メディア専門学校(中央区)に協力を依頼
  - 新潟市北区特産物リポート 農産物 Part1(YouTube : 6 分 37 秒)
  - 新潟市北区特産物リポート 農産物 Part2(YouTube : 5 分 25 秒)
  - タベテ ミテ キタク【学生企画作品】(YouTube : 7 分 7 秒)
  - 阿賀野川河口のしじみ漁とサケ漁(YouTube : 6 分 31 秒)
  - 福島潟 春から夏の花めぐり(YouTube : 3 分 54 秒)
  - 桜咲く～北区 春のたより～(YouTube : 4 分 36 秒)
  - ひょうたん池のオオモノサシトンボ ―希少なトンボを求めて―(YouTube : 5 分 7 秒)

### ○「食育」の推進事業

未来を担う子供たちの食の環境を整え、健康な心と体づくりを進め、活力あるまちづくりを目指すため、大人からも「食」に関する理解を深めてもらい、小学校などで実施されている「食育」事業の支援を行うため、北区小中学校 P T A 連合会と共催で講演会を開催しました。

「食育講演会」(平成 27 年 11 月 21 日)

- ・演題 「食事を変えたら「いじめ」、「非行」、「暴力」がなくなった長野県真田町の軌跡」
- ・講師 大塚 貢 氏
- ・会場 北区文化会館
- ・参加者 約 300 人

## イ 平成 28 年度提案事業について

### ○北区夏休み子ども公共施設利用体験事業

子どもたちが夏休み期間中の区内公共施設の利用を通して、区内小中学生の自己啓発や地域への関心を高めることを目的に、その移動手段として、公共交通手段が不足する地域と公共施設を結ぶ無料バスを運行しました。

- ・運行期間 平成 28 年 7 月 26 日～8 月 24 日うちの 16 日間
- ・マイクロバス(27 人乗り) 2 ルート運行
- ・のべ利用者数 415 人

### ○「命」の教育事業

日々の忙しさにより子どもも大人も心の余裕がなくなってきており、人類愛・家族愛を含めて、心の平和など広い視点で「命の尊さ」を学び、虐待やいじめ防止を目指すため、「命の教育」の講演会を北区小中学校 P T A 連合会と共催で開催しました。

「命の教育」講演会(平成 28 年 11 月 12 日)

- ・演題 「子ども人間力を伸ばす～その具体的方法とは」
- ・講師 親野 智可等 氏
- ・会場 北区文化会館
- ・参加者 約 350 人

### ○地域防災力向上事業(海辺の森等津波避難対策)

津波浸水想定区域周辺の集客施設を抱える地域において、利用者が速やかに避難できるように、避難場所や避難経路をわかりやすく伝える方策について、ワークショップを行い検討し、避難誘導看板などを設置しました。

＜ワークショップの開催＞

- ・日時 平成 28 年 5 月 24 日
- ・参加者 16 名
- ・参加者 南浜地区コミュニティ協議会、海辺の森指定管理者、島見浜茶屋組合

＜避難誘導看板の設置など＞

- ・ソーラーLED 照明付避難誘導看板 1 基(海辺の森キャンプ場入り口)
- ・避難誘導看板 3 基(島見浜海水浴場駐車場)
- ・誘導表示板 4 基(避難誘導路入口)
- ・避難誘導パネルの表示(海の家 7 施設)
- ・避難路マップの配布(海辺の森キャンプ場利用者)

＜看板除幕式＞

- ・日時 平成 28 年 7 月 15 日
- ・参加者 30 名
- ・参加者 南浜地区コミュニティ協議会、海辺の森指定管理者、島見浜茶屋

組合

### 3 課題

#### (1) 会議の運営方法の検討

多くの委員が意見を発言できるように、資料の簡素化や説明時間の短縮、また進行方法などについて、今後検討する必要があると感じました。また、発言がどのように反映されるのかについてわかりやすい回答を希望します。

#### (2) 課題に対する自治協議会としての取組方の検討

北区の課題の解決のために、いかに区自治協議会として取り組んでいくかということについて、課題に関係する団体との意見交換や情報収集を行うなど、粘り強く取り組む意識の共有を期待します。

また、行政経験のある人がいれば、建設的な意見交換や集約ができるので、委員の選出において配慮したほうが望ましいと感じました。

#### (3) 委員改選時の課題の引き継ぎについて

各部会において専門的に取り組んで検討されてきた課題などについて、「自治協議会だより」や部会振り返り資料を活用しながら、新規委員に伝えていく必要があると感じました。これにより、区自治協議会委員の役割についても理解しやすいと思います。

# 東区自治協議会(第5期)を振り返って

東区自治協議会会長 後藤 岩奈

## 1 はじめに

東区自治協議会第5期の2年間を振り返ってみることにします。

はじめに、全体会の会場レイアウトの工夫、報告時間の短縮、部会企画も全体の事業とする認識の共有などで、委員がお互いに顔を見合わせて、意見を出し易くすることを目指しました。また、提案事業検討部会を設け、事業に対する入念な準備を図りました。新潟県立大学との連携、「自治協議会だより」の発行にも力を入れました。

平成27年度提案事業「東区まちづくり実践塾」では、山中知彦前会長の基調講演から「まちづくり」、「協働」についての基礎や筋道を探り、東区内の地域活動の多くの具体例、実例に触れました。また、コーチングや新潟港についての勉強会、長岡市の先進地視察、「災害時ひなん誘導看板」の設置と検証、東区魅力探訪バスツアーを行ないました。

平成28年度提案事業「東区まちづくり実践塾(活動編)」では、前年に学んだ知識や理論を踏まえて、より実践的な活動として、防災リーダーの育成、災害時の被災情報伝達体制の整備、東区めぐりツアー、情報誌の検証と改善、世代を越えた交流活動、東区の公共交通実態調査などを行ないました。

以下、その詳細、および成果と課題について見ていきます。

## 2 取組内容・成果

### (1) 全体会について

#### ア 会議運営

今期最初の全体会を開催した際、行政からの報告が後ろから聞こえるのはおかしいという新任委員からの指摘があり、次の回から行政側も委員の議論の輪の中に入るような会場レイアウトに変更しました。これにより、委員と行政職員がお互いの顔を見ながら協議できるようになりました。

今期からは、部会が企画する事業も全ての事業が区自治協議会全体の事業だという共通認識を委員が持つようにしたため、全体会で事業の内容についての報告の仕方が変わり、意見交換がしやすくなりました。

また、これまで会議当日に配付していた各部会の会議概要録を事前(約1週間前)に配付することにしました。これにより、部会報告の時間を短縮し、内容の協議や質疑に充てることができるようになりました。

## イ 新潟県立大学との連携

東区自治協議会前会長である山中知彦国際地域学部教授の「地域社会論」の授業において、「若者が考える東区のまちづくり」というテーマで県立大学2年生とワークショップを行いました。「防災」「福祉・教育・文化」「公共交通」「商店街」等のテーマ毎にグループに分かれて委員がファシリテーターと記録係を務め、学生の声に耳を傾けました。

普段接する機会が少ない学生の皆さんと直接顔を合わせて話したことは、とても新鮮でいい経験となったという声や、若者の意見をこれからのまちづくりに活かしていく必要性を感じたという声が聞かれました。

## ウ 東区自治協議会だよりの発行

区自治協議会の活動を広く区民に周知し、認知度を上げる目的で、平成27年度に第4号～6号を、平成28年度に第7号～9号を発行しました。

編集部会で毎号アイデアを出し合い、区民に親しみを持ってもらえる紙面づくりを心がけました。区自治協議会の役割や活動情報を掲載したほか、地域コミュニティ協議会の活動について連載したり、東区の魅力や区内で活動する団体等を紹介するなど、区民に身近な情報を発信しました。

第5号及び第8号に掲載した「東区を知るクイズ」の回答には、「毎回楽しく読んでいます」などの感想が寄せられ、目的の達成に繋がっていると感じました。

## (2) 部会について

### ア 会議運営

各部会が企画担当する事業であっても、自治協議会全体の事業であるという認識を持って会議に臨むことで、他部会の委員の協力や参加について考慮しながら事業の内容を協議するようになりました。

### イ 提案事業検討部会の設置

前期までは「提案事業検討会議」として開催していたものを、今期では「提案事業に関する事項について、連絡調整、検討を行う特別部会」と位置づけ、次年度の提案事業について協議する時だけでなく、提案事業を実施する際の各部会間の連絡調整や検討事項を協議する時などにも開催しました。

その結果、委員全員が一体となって提案事業を実施することができるようになりました。

## (3) 提案事業について

### ア 実施方法

前期までは部会毎に事業を企画・実施し、内容は部会報告でしか知ることが

できませんでしたが、今期から委員全員が、すべての事業が区自治協議会全体の事業であるという共通認識を持つことで、他の部会が企画した事業にも積極的に協力したり、他の部会の活動内容をより理解できるようになりました。

また、委員だけでなく、区民、地域コミュニティ協議会関係者、県立大学などと協働で事業を行うように努めることで、区自治協議会の活動に対する理解を広めることができました。

## イ 平成 27 年度提案事業「東区まちづくり実践塾」

### 【目的】

区の協働によるまちづくりを進めるため、講座や先進地視察を実施しました。また、学んだ知識を活かしながら東区の活性化(実践)に繋げるため、普及啓発事業も併せて実施しました。

### 【内容及び成果】

#### ①講座

各部会の担当部門ごとに 3 つのテーマを設定し、以下のとおり講座を開催しました。

#### ○「東区まちづくりフォーラム～みんなで考える東区の未来～」

「まちづくりの基礎」や「協働」について学ぶため、当自治協議会の山中前会長による基調講演と、区内において各分野で地域活動を実践している方や学生によるパネルディスカッションを実施しました。

区自治協議会全体事業として、委員全員で力を合わせて成し遂げることができたほか、地域コミュニティ協議会でもさまざまな事業を行っていますが、それぞれの立場で地域の協働について努力されている人がいることを改めて実感しました。

#### ○「コーチングを学ぼう！心を動かすコミュニケーションセミナー」

それぞれの立場でさまざまな人との接し方・関わり方を考えるきっかけづくりとするため、相手のやる気と能力を引き出すコミュニケーション技術である「コーチング」について、講師を招きセミナーを開催しました。

20～30 代の方の参加もあり、さまざまな世代から関心を持ってもらうことができました。

#### ○「新潟港将来構想についての勉強会」

区にある大規模な交通拠点であり、区のまちづくりを考え、実践していくうえで関連する「新潟港将来構想」について、県の担当者を招き勉強会を開催しました。

新潟港の拠点としての現況や将来構想計画の重要性について再認識することができました。

#### ②先進地視察

区のまちづくりに活かすため、「協働」に関する取組を実施している長岡

市(アオーレ長岡、ながおか市民防災センター、長岡市民防災公園)を視察しました。

アオーレ長岡を中心としたまちづくりや防災の取組を先進的に実施している姿を見て非常に参考になりました。また、区役所南口エントランスホールや東区プラザの活用方法、災害時の対応策など、区のまちづくりにも活かせることが数多くあると感じました。

### ③提案事業に係るワークショップ

委員が5グループに分かれて、「東区まちづくりフォーラム」や長岡市への先進地視察における成果や区のまちづくりへの活用策について意見交換を行い、次年度提案事業案の作成に活かすために重要なポイントを整理しました。

グループに分かれて話し合ったことで、自由に意見を述べることができたほか、さまざまな意見を聞くことができて大変有意義でした。

### ④普及啓発事業

部会ごとに、昨年度提案事業からの継続性を持たせつつ、以下のとおり事業を実施しました。

#### ○地域防災普及支援事業：第1部会(市民協働部門)担当

地域における防災意識の向上を図るため、近隣の避難所や避難所までの距離などを掲載した「災害時ひなん誘導看板」を区内に設置しました。また、誘導看板の検証作業を実施し、地域における避難誘導體制などを検討しました。

看板の枚数等に差異はあるものの、全地域コミュニティ協議会で実施したことは評価でき、看板を設置するのが適切と思われる場所に思うように設置できない難点もありましたが、地域住民にとっては、看板に避難所名が明記されているだけでも有効なものとなりました。

また、地域の防災力向上は、最も大きくかつ永遠の課題と言え、その中で誘導看板を切り口に、地域住民が地域外の人と共に検証作業をしたことは大変意義がありました。

#### ○東区の魅力探訪事業：第2部会(福祉・教育・文化部門)担当

区民の区に対する理解・愛着を深め、さらなる区の魅力発見に繋げてもらうため、前期に制作した「東区を紹介するデジタル紙芝居」で取り上げた場所を訪れる日帰りのバスツアーを、コースを変えて2回実施しました。

アンケートの結果、2回とも約9割の参加者方が「満足・おおむね満足」と答え、好評でした。また、「東区に住んでいながら、見学先を知らなかった。」等の記述も多く、「東区に対する理解・愛着を深める」という事業目的に適っていたと思われます。また、オリエンテーションとして、出発前に「デジタル紙芝居」を鑑賞したことで、紙芝居の普及にも繋がりました。

### ○東区の地域産業紹介事業：第3部会(産業・環境部門)担当

前期に作成した冊子「東区内事業所の地域貢献活動情報集」の内容を広く紹介するため、ホームページに専用ページを開設して最新情報を掲載しました。

当該冊子は、区内の事業所が実施している地域貢献活動(見学会や職場体験の受け入れ状況等)の情報を掲載しているもので、内容に変更があった場合の更新方法が課題となっていました。

更新できるようになったことで、常に最新の情報を提供することが可能になりました。

### ⑤活動記録集の作成

1年間の活動内容をまとめることで、次年度事業に活かせる記録集を作成することができました。

## ウ 平成28年度提案事業「東区まちづくり実践塾(活動編)」

### 【目的】

平成27年度提案事業「東区まちづくり実践塾」で学んだことを踏まえ、より良いまちづくりの実現に向けて、以下の4事業について、地域課題の解決や魅力の向上に向けた活動に取組みました。

### 【内容】

#### ①地域防災推進事業：第1部会(市民協働部門)担当

- ・ 地域の中で活躍する防災リーダーの育成支援を目的として、自治協議会委員、東区防災士、地域関係者、県立大学生などが参加して、研修会を2回実施しました。
- ・ 地震などの災害時において、地域から区災害対策本部へ被災情報を伝達する体制を整備し、地域へのスムーズな支援や応援を行えるよう、モデルとなりうる地域コミュニティ協議会において、地域の被災状況等を地域コミュニティ協議会の災害対策本部が集約し、区災害対策本部へ情報を伝達するための体制作りを支援しました。

#### ②東区まちの魅力発見事業：第2部会(福祉・教育・文化部門)担当

- ・ 夏休みに小学生向けのツアーを実施したり、東区歴史浪漫プロジェクトと協働するなどして、東区めぐりツアーを、コースを変えて年3回実施しました。
- ・ 既存の情報紙など(「東区を紹介するデジタル紙芝居」、「東区まちの宝箱」、「わいわい東区マップ」、「あるっく!!」)を検証し、情報紙のあり方について改善策を協議しました。
- ・ 世代間交流を目的として、子どもから高齢者まで幅広い世代が集い、楽しめるイベントを開催しました。

#### ③東区の公共交通に関する実態調査：第3部会(産業・環境部門)担当

- ・ 地域の公共交通について今後の検討を行うための基礎資料の作成を目的として、「東区の公共交通に関する実態調査」(区民から約 1、300 人を無作為抽出したアンケート調査など)を実施しました。
- ・ 調査結果から導き出された課題を踏まえ、市内及び他都市で成功している路線バスや区バス以外の移動システム(デマンドシステム等)の事例研究を行いました。

#### ④東区まちづくり研究会：提案事業検討部会担当

新・東区役所誕生 5 周年記念事業において、自治協議会の活動を紹介するパネル資料展を開催しました。

### 3 課題

- 全体会での議論が活発になるように、会場のレイアウトを変更し、可能なものは事前に資料を送付するようにしましたが、まだまだ発言が少ないのが現状であり、さらに会議運営を工夫する必要があると感じました。
- 平成 29 年度から委員構成や任期など区自治協議会のあり方について検討するということですが、今の制度では委員の年齢層が高くなる傾向があり、もっと若い世代が活躍できるような制度や委員構成について検討する必要があるのではないのでしょうか。
- 未だに「区自治協議会という名前は聞いたことはあるが、何をしているのか分からない。」という声を聞きます。区自治協議会の活動を知ってもらうには、「自治協議会だより」などで広報するだけでなく、区自治協議会で報告された内容をきちんと地域に持ち帰り、実際に地域の人と接しながら、一つでも多くの地域課題を解決し、それを成果として地域住民に実感してもらうことが大切なのではないのでしょうか。
- 提案事業を企画し実施するうえで、区自治協議会全体として取り組む事業、部会として取り組む事業、そして行政がやるべき事業のすみわけをはっきりさせ、それぞれの役割を明確にする必要があるのではないかと感じました。

# 中央区自治協議会(第5期)を振り返って

中央区自治協議会会長 豊嶋 直美

## 1 はじめに

中央区自治協議会は発足10年目を迎え、地域を取り巻く環境も刻々と変化していくなか、新潟市がめざす市民との協働の推進に向け、これまで以上に行政と区民が連携してきめ細かく地域課題に対応していくことが求められています。

こうしたことから第5期中央区自治協議会では、区自治協議会が真に区民と行政との協働の要として役割を果たせるよう、これまで以上に委員の意識改革を促すことが重要と考え、各種活動を展開してきました。

その結果、徐々にではありますが、全体会や各部会を通じて委員の積極的な発言やスキルを発揮する場面が見られるようになり、区自治協議会全体の取組成果につながってきたと認識しています。

## 2 取組内容・成果

### (1) 全体会について

全体会には、受身でなく積極的に目的意識を持って参加することが望まれ、また会議内容は選出団体へフィードバックしていくことが必要である点を踏まえ、市の附属機関の一員である委員が、自らの役割を着実に果たすための方策を以下の3点にまとめ、全体会で意思統一を図りました。

具体的には、「中央区自治協議会のさらなる活性化について」と題し、

- ①自治協議会の内容について選出団体等へフィードバックを確実に行うこと
- ②自治協議会の場で地域課題を自由に話し合っていくこと
- ③要望は、中央区自治協議会として所定の手続きで行うこと

その結果、各委員は、少しずつではありますが積極的に地域課題を行政に届け、行政情報を地域へ伝えていくなどの自覚と行動が出てきました。全体会での発言は前期に比べ格段に多くなり、問題提起も出てくるようになりました。

### (2) 部会について

#### <拠点と賑わいのまち部会>

中央区は、政令市新潟の中心地であり、住む人、訪れる人にとって魅力的で賑わいあふれるまちであることが望まれています。そのような中、「拠点と

賑わいのまち部会」では、地域のにぎわい創出や活性化をどのように実現していくべきかを調査・検討しました。

### ＜人にやさしい暮らしのまち部会＞

「人にやさしい暮らしのまち部会」は、教育連携・社会教育、協働、健康・福祉、防災・防犯、生活環境など幅広い分野を所管しています。第5期では、発生から51年が経過した新潟地震を風化させることなく、「自助」、「共助」、「公助」に主眼をおき、「地域コミュニティを活性化する方法としての防災活動」をテーマに掲げ調査・研究を行ってきました。

### ＜水辺とみなとまち部会＞

第4期(平成25・26年度)「水辺とみなとのまち部会」が提言した「北前船時代の新たな街並みづくり」を検証し、未来の新潟の新たなまちづくりに資することを目的として、みなとまち新潟の歴史・文化に関する取組や各種調査・研究を行いました。

## (3) 提案事業について

### ＜拠点と賑わいのまち部会＞

#### 【未来に備えた地域のにぎわい創出・活性化事業に係るグループインタビュー】

平成27年度は、部会で検討してまとめた活性化12案について、区民20人を対象にグループインタビュー(グループ単位での対話形式)を行いました。

- ・実施日：平成28年2月20日(土)①10：00～12：00 ②14：00～16：00  
平成28年2月21日(日)①10：00～12：00 ②14：00～16：00

- ・参加者数：一般区(市)民 計24名

#### 【“なつかしき 未来の街”未来に備えた地域のにぎわい創出・活性化フォーラム】

平成28年度は、前年度に行ったグループインタビューを基に、関係者への聞き取り調査を実施するなど検討を進め、最終的に活性化案を5つにまとめました。

フォーラムでは、部会でまとめた活性化5案について、部会委員がプレゼンテーションを行い、有識者によるパネルディスカッションにて、プレゼン内容に関し意見交換を行いました。会場からも多数の意見があり、熱のこもったフォーラムとなりました。

- ・実施日：平成28年11月27日(日)
- ・場所：クロスパルにいがた 4階 映像ホール
- ・一般来場者数：85名

### ●事業評価

- ・フォーラムでの提案を目標に当初部会で検討した80の活性化案を基にグ

ループインタビューや関係者への聞き取り調査を行い、委員自らプレゼン資料を作るなど部会が主体となり区民目線での提案に努めました。

- ・ フォーラムでは、部会で検討した活性化 5 案を区(市)民へ提示し、中央区の将来について来場者と共に考えていく機会となり、闊達なフォーラムになったと思います。
- ・ 来場者アンケートからフォーラムについて、9 割の方が「よかった」との回答で、高い評価をいただきました。
- ・ 今後の取組を期待する声も多数寄せられましたが、このたびの提案が今後のまちづくりの一端として活かされていくことを願っています。

### <人にやさしい暮らしのまち部会>

#### 【わが家のチェックシート “自分の命は自分で守ろう！” の作製】

平成 27 年度については、大規模地震からいかにして「自分自身の命」を守り、かつ「家族の命」を守るかに主眼を置き、一人ひとりに「自助」の意識を高め、家族で話し合う機会にしてもらうため、「わが家のチェックシート “自分の命は自分で守ろう！”」を作製し、広く区民に発信しました。

- ・ 配布先：中央区内全世帯および希望のあった区内の小・中学校

#### 【災害時(地震・津波等)における「安否確認」「要援護者支援体制」および「緊急連絡網」構築のための調査・検討】

平成 28 年度については、災害時(地震・津波等)における「安否確認」「要援護者支援体制」および「緊急連絡網」構築のための調査・検討を重ねました。

各自治会・町内会における要援護者支援体制の現状を調査し、その結果をもとに要援護者支援体制を構築しやすくするため、手引きを作成しました。

- ・ 配布先：中央区内全自治会・町内会

#### ●事業評価

- ・ 大規模地震からいかにして「自分自身の命」、「家族の命」を守るかに主眼を置き、リーフレット版「自分の命は自分で守ろう！」を作製し、中央区内の全世帯や一部の小・中学校等へ配布しました。学校、地域からは避難訓練に活用したい旨のお問い合わせが多数あり、追加配布を行うなど好評でした。
- ・ 検討を進める中で、結局のところは、日ごろからのつきあいが大事なのだということに改めて立ち返ることになりました。防災に取り組むことを“てこ”にして、地域のつながりを結びなおし、また地域の活性化が図られるものと考えます。
- ・ 面積の大小や世帯数の多寡など、自治会・町内会の規模はさまざまですが、まず、家族や自治会・町内会で話し合い、やれることから始めるという“きっかけ”を作ることができました。

### <水辺とみなとまち部会>

### 【開港 150 周年記念事業等調査】

開港 150 周年を見据え、新潟市を除いた開港 4 都市及び開港記念事業を実施している全国 34 都市の開港記念事業調査を実施しました。

- ・調査期間：平成 28 年 1 月 15 日(金)～平成 28 年 2 月 3 日(水)
- ・回収率等：配布 38、回答 32、回収率 84.2%

### 【夏休み親子社会科体験「訪ねよう！北前船物語」】

小学生親子を対象とした、みなとまち新潟の歴史、文化、地域を巡る「まち歩き」を実施しました。

- ・実施日：平成 28 年 7 月 23 日(土)、8 月 18 日(木)、8 月 28 日(日)
- ・参加者：7 月 23 日(土)…5 組 11 人、8 月 18 日(木)…7 組 14 人  
8 月 28 日(日)…3 組 6 人

### 【下町地域コミュニティ協議会代表及び「まちづくり団体」代表との情報交換会】

地域との情報ネットワーク確立、連携強化を目的に北前船ゆかりの地である下町地域のコミ協、「まちづくり団体」と情報交換会を実施しました。

- ・開催日時：平成 28 年 2 月 25 日(木)午後 2 時から(27 年度)  
平成 29 年 1 月 19 日(木)午後 2 時から(28 年度)
- ・参加団体：平成 27 年度…9 団体・16 名、28 年度…7 団体・14 名

### ●事業評価

- ・開港 150 周年記念事業等調査では、設問設定にあたり、部会委員にて確認を繰り返し、「市民参加」、「その後のまちづくり」という内容に沿った設定を行うことができたと考えます。回収率も高く、回答では、様々な実施内容、市民の主体的参加を促す工夫、当該地の特色を出す方法など参考になるものが見られました。

また、本市の地域・魅力創造部や港湾課へ、事前に設問項目の摺り合わせを行い、連携した取組ができました。

開港 150 周年を迎えるにあたり、あらゆる団体と市民が心を一つにできるよう、気運の醸成が必要と考えられます。

- ・親子で巡る「訪ねよう！北前船物語」では、コース検討をはじめ、栞作成、参加記念品作製など部会にて議論を交わしながら取組、次代を担う子どもたちにみなとまち新潟の歴史を知ってもらおうという部会の意向を形にすることができました。

参加者数が予定を下回ったことは、広報不足や、世代間意識の差など反省すべき点はありますが、事業企画の趣旨を伝えることはできたのではないかと考えています。

- ・下町地域コミュニティ協議会代表及び「まちづくり団体」代表との情報交換会では、2019 年に迎える開港 150 周年に向けて、さまざまな意見や提案など建設的な話が多く、有意義なものでした。

### 3 課題

第5期では、「中央区自治協議会の活性化」を大きなテーマとして委員への意識改革を促した結果、委員が協議会で積極的に発言するようになるなど前進した部分もありましたが、地域課題の解決という点では少し足りないところがあったと思います。

全体会では、会議内容が各選出団体へフィードバックされるようになりましたが、各委員が地域住民の声(課題)を区自治協議会へ届け、お互いに意見交換する場面はまだまだ少ない状況でした。区自治協議会は、各地域団体や学識経験者など専門の知見を備えた人材が揃っていますので、積極的に地域課題について話し合っていくことで解決の糸口が見つかると思います。

また、部会活動では、行政経験のほとんどない委員が、とにかく提案事業の実施に労力を注がざるを得ず、どの部会もその他の地域課題をほとんど審議する時間がありませんでした。提案事業は、区づくり事業の一端を担っており、協働の推進という点からも今後は、地域課以外の区担当部署からも部会に関わっていただくなどの改善が必要と考えます。そうすることで、部会活動に取り組むことで、よりスムーズに幅広い観点で地域課題を審議していけるものと思います。

次に、改選に伴い、新しく就任する委員は、区自治協議会についての理解が深まらないうちに、あっという間に時間を過ごしてしまう傾向があります。区自治協議会の果たす役割をしっかりと理解し、活動していただくためにも、早い時期で委員研修を充実させるなど、委員のスキルアップに努めていく必要があります。

最後に区自治協議会に対する認知度が低いことや、若い委員の就任が少ないなどの課題があります。自治協発足 10 年の節目を迎え、区自治協議会が区民に一層理解していただけるよう、創意工夫をしながら取り組んでいくことが重要と考えます。

# 江南区自治協議会(第5期)を振り返って

江南区自治協議会会長 豊岡 克

## 1 はじめに

第5期を振り返ると、特別部会を設置し、検討した3点が特筆されます。

一つ目は、区内の一部自治会から要望されていた合併に起因する防犯灯の不公平感の解消です。区自治協議会の意向を区に伝えるとともに、防犯灯を含む区内の安心、安全な地域づくりの推進を図ることを目的とした事業を平成28年度から特色ある区づくり事業として実施しました。

二つ目は、平成29年度に江南区誕生10周年を迎えることから、区民のさらなる一体感の醸成に繋げるため、記念事業を実施することを決定し、企画・立案を行いました。未来を担う子ども達に光があたるように検討を重ね、子ども達から見た江南区のイメージを歌詞に盛り込んだ「江南区の歌」を作ることとしました。

三つ目は、区と協働で、今後の区のまちづくりについて検討する中で、まちづくりに関する現在の市の方向性と地域の考え方に少し乖離があることから、その対応を検討しました。この問題について、すでに検討中であった、亀田商工会議所中心の勉強会にも参加し、意見をまとめて、市に対して地域の考え方を要望書として提出しました。

委員が一つになり一定の成果をあげることができ、一体感の醸成に繋がることができたと思います。区政移行後10年が経過しましたが、この10年で何を成し遂げ、どんな課題が残っているのか検証し、これからの10年を見据え一層の充実を期待します。

## 2 取組内容・成果

### (1) 全体会について

#### ア 「新潟市のまちづくりに関する江南区からの提案・要望」の提出

区と協働で、今後の区のまちづくりについて検討する中で、まちづくりに関する市の方向性と地域の考え方に乖離があることから、その対応について、区内の商工会議所をはじめとする各団体との勉強会に参加し課題等を共有するとともに、「新潟市のまちづくりに関する江南区からの提案・要望」として、勉強会の参加団体と連名で篠田市長に要望書を提出しました。

#### イ 江南区選出議員(県・市議)との懇談会

区の地域課題の解決と今後のまちづくりに対する意見交換会を開催しまし

た。また終了後に懇親会も実施し、まちづくりに関しての共通認識を共有することが出来ました。

### ウ 区教育ミーティング開催

各区共通の課題や区の実情などについて、区自治協議会委員と教育委員が共に考えるミーティングを実施し、新潟市教育ビジョン実施計画について、具体的な教育活動と地域との関わり等、区内の教育現場や状況の意見交換を実施しました。全体会及び環境・教育部会を中心メンバーとした意見交換会と年間2回、全体会の日程に合わせて開催しました。

### エ 区自治協議会通信の発行

区自治協議会の活動内容を区民に周知する為の広報紙として、江南区自治協議会通信を発行しました。より区民に関心を持っていただけるよう、絵や写真を多く使用するなどの見直しを図り、各年度2回発行し、区内全戸に配布しました。

### オ 特色ある区づくり予算に係る事業提案

地域の課題や活性化のため、区自治協議会の意見を事業実施へ反映させました。

切れ目のない子育て支援として「初めての子育て支援事業フォローアップ」や、防犯灯問題検討特別部会での検討を基に、「江南区安心・安全な地域づくりの推進」として、各地区のコミュニティ協議会が地域の課題解決に取り組みました。

### カ 区自治協議会委員の研修会

市内全体の研修会に加え、区の研修ということで、秋葉区自治協議会委員と合同で研修会を実施しました。

新潟薬科大学や中央卸売市場の見学をはじめ、意見交換では、他区の自治協議会委員の考えや取組も学ぶことができました。

## (2) 部会について

常設部会である「まちづくり部会」「環境・教育部会」「安心安全部会」では、それぞれが所管する分野について、区自治協議会提案事業を中心に取り組みました。

平成27年度には、「防犯灯問題検討特別部会」を新たに立ち上げ、区独自の課題解決に向けて検討を行い、区自治協議会として一定の方向性を示しました。

平成28年度には、「江南区誕生10周年記念事業特別部会」も立ち上げ、平成29年度に提案事業で行う記念事業の内容等について、検討を行いました。

### (3) 提案事業について

#### 【まちづくり部会】

##### <取組内容>

##### 《まちづくり活動サポートプロジェクト》

- 区内コミュニティ協議会を対象に、地域が抱える課題を解決する取り組みについて提案をいただき、部会員も事業に参加しサポートを行いました。
  - ・横雲通りピカピカ大作戦（横越）
  - ・江南区の自然に学ぶ（横越）
  - ・小阿賀野川河川公園「酒屋広場」の有効活用を考えるワークショップ（両川）
  - ・かめだ木遣り保存プロジェクト（亀田）
  - ・大江山地域住民と児童生徒との絆づくり事業（大江山）
  - ・地域の歴史・伝統を知り、地域を大好きになるプロジェクト（亀田西）
  - ・新コミュニティ協議会設立記念事業（曾野木）

##### <成果>

- それぞれの地域が抱える課題について、解決に向けた事業に部会員が一緒に取り組むことで、区自治協議会委員が地域の課題を共有することができました。
- 提案事業は、コミュニティ協議会が地域の子も達と一緒に取り組む多世代交流の内容が多かったため、地域の課題解決を始め、将来の江南区を担う子ども達のシビックプライドの醸成に寄与するとともに、コミュニティの活性化に繋がりました。

#### 【環境・教育部会】

##### <取組内容>

##### 《子どもの声を活かす地域“未来”プロジェクト》

- これまで小学校単位で開催してきた「子ども会議プロジェクト」等が出された、子どもの声を活かす方策を検討し、地域との協働を視野に事業を展開しました。
  - ・「きれいなまちづくり運動」（H27～28）  
小・中学生と一緒に、地域を草花できれいに飾り、その後、子ども達との交流会を開催、意見交換を行いました。
  - ・大江山公園にぎわい創出事業（H28）  
道路案内標識の設置、コミ協が主催する「縄文市」でのアンケート調査や公園のパンフレット作成などを行いました。

##### <成果>

- みんなの力で、花いっぱいの亀田に！「きれいなまちづくり運動」
  - ・「思いやりのあるきれいなまちにしたい」という子ども達の声を活かしながら事業を企画し、その趣旨にそった内容や進め方ができました。

- ・家族と過ごす時間が減っている中、親子で一緒に体験できる事業を実施したことで、参加者からも好評でした。
- ・事業を通じて、みんなで植栽することによる達成感や、花できれいになった地域への愛着心を持つことにつながりました。
- ・環境・教育部会で始めた事業であったが、2年目には、地域が主体となる事業としてつながりました。地域の力を活かしたまちづくりの推進に貢献することができました。

○ 大江山公園にぎわい創出事業（H28）

- ・子ども達の「大江山公園をもっとにぎやかな公園にしたい」という思いにそった活動ができました。
- ・大江山公園の案内看板設置により、公園の場所がわかりやすくなりました。
- ・「大江山縄文市」に参加し、縄文市を活気づかせると共に、区自治協議会の宣伝も行うことができました。

**【安心安全部会】**

**《誰でも安心して安全に暮らせるまちづくりプロジェクト》**

- 区内の自治会長や防災を担当する役員等を対象に区内3会場で「防災教室」を実施しました。
- 夜間の交通事故防止を目的に反射板ベルトを作成し、希望者に配布しました。
- 災害が発生した際の情報収集に役立つ「防災メール」及び出先等で災害が発生した場合の避難所の場所を知ることが出来る「防災アプリ」の広報を、新聞折り込みで江南区全世帯にチラシを配布しました。

**<成果>**

- 「防災教室」について
  - ・災害が発生した際、自治会長など役員として「何をすべきか」を学ぶことができました。
  - ・自主防災組織の必要性について理解することができ、組織結成に役立ちました。
- 「反射板ベルト」の作成
  - ・夜間の交通事故の防止に役立てました。
- 「防災メール」「防災アプリ」の広報
  - ・「防災メール」「防災アプリ」の利点等知っていただき、登録者の増に寄与出来ました。

**3 課題**

- 全体会の運営について

報告事項や市から提案された議題が多く、地域課題に特化した議論が少ないと思います。また、限られた時間の中で会議を円滑に進めるために、報告事項等の資料の簡素化を図るとともに、担当課の説明も簡潔にさせていただくようお願いします。

○ **区自治協議会のあり方について**

平成 29 年度より区自治協議会のあり方について検討していく予定ですが、区自治協議会の役割の明確化を図るとともに、委員構成についても、再任回数の考え方や若年層を取り入れるための手法など検討が必要と感じます。また、委員の費用弁償についても見直しの必要性があります。

○ **区自治協議会提案事業について**

区自治協議会提案事業は、主に各部会での活動として行っていますが、本会議の他に部会活動で休日等に活動することもあり、委員の負担になっている部分が見受けられます。また、予算の用途についても、場合によっては特色ある区づくり事業の予算に充てるなど、柔軟な取扱いが必要です。

# 秋葉区自治協議会(第5期)を振り返って

秋葉区自治協議会会長 東村 里恵子

## 1 はじめに

「きらめく秋葉区」での協働のカタチ、区自治協議会の存在意義を模索する2年間を振り返ります。

平成28年4月に、新津駅東口に新潟薬科大学応用生命科学部の新キャンパスが開校したことを好機ととらえ、秋葉区のまちづくりへの意識に高まりが見えています。そこで、区自治協議会も平成27年度には学生との意見交換や大学の施設見学などを研修の場に盛り込み、平成28年度は、区自治協議会定例会を新キャンパスの講堂で開催しました。また、大学1年次教養必修科目「スタートアップセミナー」へ区自治協議会委員を講師として派遣し、学生とのグループワークを実施するなど、大学とりわけ学生との連携や協働を意識する活動を展開しました。

第6期に向けて区自治協議会委員の改選が進められる中、新潟市全8区では教育・福祉が重要な位置づけとなり、「地域教育コーディネーター」や「支え合いのしくみづくり会議の生活支援コーディネーター」との連携が欠かせない情勢となっています。秋葉区自治協議会では、第5期の提案事業で「教育」「福祉」「協働」などをテーマとし、各部会が、その情勢を地域課題としていち早く察知し、解決するべく着手実行してきました。

秋葉区民に身近なまちづくりや地域課題の解決のため、区民や区内の諸団体等の主体的な参加を求めつつ、多様な意見の調整及びとりまとめを行い、区民と区役所との協働の要としての機能を担う区自治協議会の必要性が今後ますます重要となり、且つそれに対応ができる協議会であるべきと考えています。そこで私は、区自治協議会の存在を発信すること、諸団体との連携を大切に活動することを目指しました。

## 2 取組内容・成果

### (1) 本会について

秋葉区に限らず、どの区にも共通している課題かもしれませんが、審議案件に報告事項が多く、加えて担当課の説明時間が長いです。さらに会議資料の多さが挙げられます。会長の立場としても是正できるものはしていきたいと考え、事務局と相談し、いくつか改善できたものがあります。1つは、会議録の配付をとりやめたことによる資料の圧縮です。事前送付にどうしても

間に合わない資料を除き、資料の事前送付を徹底したことにより会議時間の圧縮などにもつながりました。その他、資料のペーパーレスを目指し、データ送信する可能性を模索するため、全ての委員のメールアドレス調査なども行いました。少しずつではありますが、会議の進行にもスピード感が出てきていると思います。

そして、区自治協議会の全体会を新規施設などで出張開催しました。これは、区自治協議会委員の見識を広げ、地域住民にも会議の存在を知ってもらう機会にしようと、事務局の協力を得て開催しました。「百聞は一見にしかず」秋葉区の地域資源である「新潟薬科大学」や「小須戸まちづくりセンター」などを自分の体験として地域に話をすることができ、良い企画だと感じています。

なお、区自治協議会委員の学びの場としての研修会が、新潟市内全体で実施されますが、それに加えて秋葉区の研修会を江南区自治協議会と合同で設えました。1年目は新潟薬科大学(新津キャンパス)を会場に、2年目は新潟市中央卸売市場で、施設見学や意見交換会を行いました。お互いの活動を知ることによって刺激と学びがあり、有意義な研修となりました。

## (2) 部会について

### ア 第1部会

土地利用、水と緑、農業、環境、産業、商店街、観光を審議テーマとする部会です。第5期は、前期に引き続き、行政・商店街・コミ協・諸団体と市民を結び、気楽に利用できる情報発信サイト「あきはくはつものがたり」の運営を軸に、まちなかの活性化へつなぐ工夫を図りました。サイトは利用しやすくなるように改良を重ねていますが、運営の維持管理を次のステップに進めることを視野にいれなくてはなりません。

### イ 第2部会

防犯、防災、健康・医療、福祉、住環境、生活基盤、生活交通を審議テーマとする部会です。生活交通を徹底的に検証してきた第4期から「福祉」に重心をシフトしてきました。高齢者の健康寿命の延伸に着目し、課題解決に向けた提案事業を2年かけて進めながら、併せて生活交通、主に区バスの周知に取り組みました。

### ウ 第3部会

協働、男女共同、地域、行政運営、教育、文化、スポーツを審議テーマとする部会です。次世代を担う子どもたちを育み、子どもや学生たちにとって魅力ある秋葉区となるよう学校・地域・NPO等の関係諸団体と協働して実施する各種事業に取り組みました。第6期につながるカタチを展開させました。

## エ 広報部会

秋葉区自治協議会の認知度向上を目的とする部会です。市内全区に先駆けて、委員の統一ユニフォームを採用しました。着用して活動することで、区自治協議会委員の存在と、秋葉区をPRできました。その他、広報紙かわら版「あきはくはつものがたり」を年3回発行しました。区自治協議会委員をモデルとした4コマまんが「チョGOくん」は密かな人気コーナーとなっています。また、ラジオ版「あきはくはつものがたり」の放送や、情報発信サイトと連携したFacebookページの運用など、区民に区自治協議会を身近に感じてもらうための多角的な発信を意識した活動を行っています。

### (3) 提案事業について

#### ア 第1部会

情報発信サイト「あきはくはつものがたり」の積極的な活用を継続するとともに、「きらめく秋葉区」に向け地域の課題解決につながる事業「課題解決きらめきサポートプロジェクト」を実施しました。区内から公募することで、地域に眠る人材や資源を発掘することができ、協働のカタチを示すことができました。

なお、平成28年度の採択事業は①子どものいのち・育ち応援「学びのリレートーク」(灯心文庫)、②秋葉のお茶フェスティバル(新潟茶摘み倶楽部)、③在郷町小須戸ひな・町屋めぐり(小須戸コミュニティ協議会)、④秋葉山分岐点案内図設置(新津中央コミュニティ協議会)の4つです。このサポート事業は、区自治協議会提案事業のあるべき姿と強く感じ、モデルケースとしてさらなるブラッシュアップの必要性も感じています。

#### イ 第2部会

ひきこもりがちの高齢者や外出が困難な区民の外出促進及び健康寿命の延伸を狙った事業を2年継続で行いました。「歌と笑顔」をメインテーマとした参加型イベントを開催しました。イベントは①新潟薬科大学教授による健康に関する講演、②運動療法士による健康体操、③生ピアノ伴奏での叙情歌を全員で合唱、の3部構成として実施しました。会場は、1年目は秋葉区文化会館の大ホールのみで開催でしたが、2年目はさらに地域を意識して計4ヶ所で開催しました。コミ協の協力を得るなどし、多くの区民に笑顔ひろがる場を提供することができました。参加者からは、毎年実施してほしいと好評を得ています。

#### ウ 第3部会

地域教育コーディネーターとの連携を図りながら、次世代を担う子どもたちとその家族を対象とした事業を企画しました。「尾木ママ(尾木直樹さん)」

を秋葉区文化会館に招聘し、子どもたちへの接し方などを学び、それぞれの世代の育成につながるヒントを得ました。2年目には、子どもたちが秋葉区を魅力あるまちと感じられる要素の1つとして「Akiha マウンテンプレーパーク」にスポットを当て、関係団体と協働での施設整備や利用促進に取り組みました。特に、地元の小学校の協力を得ながら、授業で実施したワークショップで子どもたちが企画したツリーハウスを、地域の皆さんとともに作り上げたことは大きな成果です。

## エ 広報部会

秋葉区の特徴でもあるコミュニティFM局を活用し、区自治協議会の活動をPRしました。「秋葉区自治協議会を今より一步身近に。まずは知り、興味が持てるように。そして住民参画ができるように。」という当初からの目標を見失わず、毎月第2水曜日の11時15分から10分間、ラジオ番組「あきはくはつものがたり」を放送しました。その他、各部会の提案事業を告知するためのスポットCMを制作、放送しました。このすべてを区自治協議会委員が順番に担当し、責任と誇りをもって臨んでいます。

## 3 課題

### (1) 本会について

幅広い年齢の区民、さまざまな業種の区民に区自治協議会の委員として活躍してもらえるような仕組み作りが求められています。また、行政、市議会、多様な市民自治の担い手との役割分担の再整理も要すると考えられます。新潟市の附属機関として、区自治協議会の構成員に期待される任務などをもっと明確にし、任期当初にはしっかりとした研修を行うべきと感じています。

なお、個人的な意見ではあるが、「自治会、町内会」「地域コミュニティ協議会」と混在する名称を再検討してはどうでしょうか。

### (2) 部会について

各部会に割り振られた審議テーマから構築した提案事業のほかにも、そのテーマに則した地域課題の検討を広い視野で且つ継続的に進めるのが理想的なあり方と認識はしていますが、各委員への負担増が気になります。選出団体での活動はもちろん、仕事や家庭、その他の地域活動もある為、提案事業以外の部会活動を多く強いるのは困難な現状もあるように感じています。効率的な方法も模索したいと考えています。

### (3) 提案事業について

現在は、各区の自治協議会に年間500万円の予算が配当されていますが、

有効活用されているのか少々疑問に感じる場合もあります。区自治協議会の予算を、区役所企画事業などに組み込んで協働使用、実施できるような柔軟さが必要な時代ではないかと考えています。

「きらめく秋葉区」を目指し、従来のカタチに囚われず前向きな発想で行動する第6期であって欲しいと願っています。

# 南区自治協議会(第5期)を振り返って

南区自治協議会会長 棚村 真寿美

## 1 はじめに

第5期(27、28年度)の南区自治協議会は、これまでの新潟市との合併計画として行われた事業のような明確な課題についての議論が終了し、次に区自治協議会委員として何に目を向け、提案事業として何ができるかを問われたと思います。

市や区からの報告事項については、配布資料から何を読み取りどのような意見を出せるか、「諮問機関」としての役割を果たすことができたのでしょうか。

南区の地域の課題については、27年度以降の「区ビジョンまちづくり計画」策定に参画し、課題の整理ができていました。

その中から区自治協議会として取り組むこととしては、まず公共交通の利用を促進することです。公共交通としては唯一バスに頼らざるを得ません。しかし、国道8号線を直進する路線バスは生活に身近な移動手段とはならず、地域を回る区バスや乗合タクシーが補っています。それら公共交通を維持するためには、利用を上げなければなりません。今後高齢で自家用車の運転が困難になる住民が増える中、区バスの存続は重要な課題です。

また、南区は少子化が進んでおり、非婚率が高いです。まずは、子供の頃からの温かで賑やかな家庭の実感があることで、結婚して家庭を持ちたいと思うのだという考えから、家族のふれあいを大切にすることに目を向けました。

そして、南区の産業の発展や観光の活性化にスポットを当て、南区全体でその気運を高めていくことが大事であると考えました。

この2年間で南区自治協議会委員が地域の課題としてとらえ部会や全体会で検討を重ねた結果、さまざまな提案を行い、事業を実施することができました。その成果を振り返ります。

## 2 取組内容・成果

### (1) 全体会について

#### ア 地域課題の解決策を提案

地域課題解決のため、専門部会を設置し、課題の把握、整理、分類を行い、市や区に対し、以下のとおり、提言や要望を行いました。

#### ①外灯(防犯灯)の維持、管理に対する意見書 平成27年9月30日付

自治会が防犯灯のLED化を進められやすい環境づくりなどについて意見書を提出しました。

## ②「南区を安心して安全なまちにするために」提言 平成29年3月19日付

南区内の犯罪を防ぐ取組として、南区防犯協会をはじめ南区自治協議会、コミ協、自治会、各種団体、企業、学校などが連携して防犯活動を継続していく事が必要であり、活動を支えるためには、一人ひとりの防犯意識の向上が大切であると提言しました。

## イ 南区自治協議会委員研修の実施

### ①協働についての講演会 平成28年2月24日(水)

区自治協議会委員のほか、各地区コミュニティ協議会も参加し、「協働とは何か」「協働の必要性」について、地域の方々と一緒に学ぶ良い機会となりました。

### ②「まち歩き」研修 平成28年10月14日(金)

昭和初期の町屋が残る特徴ある街並みの「白根商店街」周辺を、しろね大風タウンガイドから案内してもらい、白根の町の歴史などを学ぶことで、今まで住んでいながら知らなかった地域の魅力などを発見する機会となり、今後の地域づくりのきっかけとなりました。

## ウ 市長との意見交換会の開催

市政全般に関して、共通認識を得るため、意見交換会を年1回開催しました。

## エ 南区教育ミーティングの開催

各区共通の課題や区の実情などについて、教育委員と区自治協議会委員が区内の教育現場や状況などの意見交換を実施しました。※全体会及び第2部会を対象とした意見交換会を年間2回開催

## オ 議会報告会の開催

市議会議員と区自治協議会委員が「新潟市のまちづくり」をテーマに、ワークショップ形式で意見交換を実施しました。

## (2) 部会について

### ア 第1部会【公共交通、防犯・防災、環境、建設、都市計画などを担当】

#### ◎平成27年度

#### ○南区公共交通PR事業

- ・第3部会提案事業「南区たからいち(H27.9.12)」にて、水と土の芸術祭会場を巡るツアー、区バスクイズラリーを実施
- ・平成26年度区バスデザインコンテストの応募作品をバス内に展示
- ・南区区バス利用啓発チラシ(レインボーバス通信)を発行

- ・南区公共交通ガイドの発行
- ・区バス協賛広告の更新

#### ○南区防犯・防災啓発事業

- ・防災啓発マグネットを作成し、各家庭に全戸配布
- ・「南区安心・安全みまもり隊」活動の詳細を検討

#### ◎平成28年度

##### ○南区公共交通PR事業

- ・風と大地のめぐみ南区凧フェスティバル&産業まつり(H28.10.2)にて、南区公共交通PRコーナーを設置し、連節バス「ツインくる」の展示、「ぐるりん号」すごろくの実施。その他、「ぐるりん号」のPRとして、臨時運行を実施。
- ・南区区バス利用啓発チラシ(レインボーバス通信)を発行
- ・南区公共交通ガイドの発行
- ・区バス協賛広告の更新
- ・公共交通PR環境の充実

##### ○南区防犯・防災啓発事業

- ・「南区安心・安全みまもり隊」のステッカーを作成し、各自治協議会委員に配布し、見守りの実施
- ・新小学1年生へ反射材を配布

### イ 第2部会【健康・医療、福祉、教育、地域、男女共同参画などを担当】

#### ◎平成27年度

第4期からの継続事業。家族のつながりや温かい家庭をつくることが大切という、強調月間「家族ふれあい月間」を11月に定め事業を展開しました。

##### ○南区「家族ふれ愛月間」絵画展、標語・川柳展を開催

日時：平成27年11月1日(日)～18日(水)

会場：白根学習館1階 交流広場

展示総数：647点※絵画276点(小学4年生)、標語・川柳371点(中学1年生)※作品の一部を地域の文化祭で展示する試みも行いました。

##### ○「家族ふれ愛月間」映画上映会を開催

日時：平成27年11月8日(日) 午後1時30分～、午後6時～

会場：白根学習館 ラスパックホール

※「うまれる」来場者数：377名

※「うまれる ずっと、いっしょ。」来場者数：350名

##### ○南区「家族ふれ愛月間」リーフレット作成

白根高等学校イラスト部にリーフレットの挿絵を依頼し、協力して作成しました。映画上映会の来場者及び区内中学校の卒業生及び白根高等学校へ配

布しました。

○のぼり旗「家族のふれあいを大切にする南区」を作成

イベント時だけではなく、南区の地域生活センターなどに配布し通年の事業PRをしました。

◎平成28年度

○南区「家族ふれ愛月間」絵画展、標語・川柳展を開催

日時：平成28年11月1日(火)～20日(日)

会場：白根学習館1階 交流広場

展示総数：675点※絵画309点(小学4年生)、標語・川柳366点(中学1年生)※絵画・川柳展については希望するセンター、地域文化祭でも展示

○「家族ふれ愛月間」講演会・映画上映会を開催

日時：平成28年11月13日(日) 午後1時30分～

会場：白根学習館 ラスペックホール

※講演会「～老いを柔(やさ)しく受けとめて～」 講師：小松 みゆき

※映画上映会「ベトナムの風に吹かれて」 来場者数：350名

※事業啓発リーフレット&カレンダーを映画上映会での配布を行い南区「家族ふれ愛月間」のPRを行いました。

○南区「家族ふれ愛月間」卓上カレンダー作成

区内中学校の卒業生へ配布し、南区「家族ふれ愛月間」の認知度向上を図りました。

ウ 第3部会【産業、観光、文化・スポーツなどを担当】

◎平成27年度

○「南区たからいち」を開催

日時：平成27年9月12日(土) 会場：白根総合公園

開催概要：南区物産のPR、南区飲食ブースの出店、苧麻を使った凧綱製作実演、南区産ぶどうの種飛ばし大会、区バスPRコーナー、区バスで巡るシャトルバスみずつち号 ほか

南区の産業や観光の活性化のために、南区の宝となるものを区内外にPRしました。

※来場者数：約1,400名

○「南区綱引き合戦」を開催

日時：平成28年2月6日(土) 会場：白根カルチャーセンター

開催概要：地区対抗綱引き、区内コミ協紹介パネルの展示

南区各地域の交流と親睦を目的に、南区の一体感を創る機会となりました。

※参加者数：8チーム(約120名)

◎平成28年度

○「南区綱引き合戦」を開催

日時：平成29年2月5日(日) 会場：白根カルチャーセンター

開催概要：地区対抗綱引き、区内コミ協紹介パネルの展示

※参加者数：8チーム(約120名)

○農商工連携イベントの検討

農商工連携イベントについて協議し、農家へのアンケート調査を実施

○南区の食について考える座談会

日時：平成29年1月15日(日) 会場：天昌堂

開催概要：「消費者のニーズを掘り起こす取組(消費者の声を聴く)」意見交換会の実施。

参加者：南区の主婦層を中心とした女性13人

エ 広報部会

◎平成27年度

○南区自治協議会だよりの発行

区自治協議会委員の活動や部会報告の他、南区の宝となるものや話題、地域で活躍している人を紹介するなど、興味を引く紙面づくりに努めました。

- ・第3号 平成27年 7月 5日発行
- ・第4号 平成27年12月16日発行
- ・第5号 平成28年 3月20日発行 年3回

○南区自治協議会PR回覧板の作成

PR回覧板を自治会で使用してもらうことによって、幅広い年代の方々に対して自治協議会の認知度向上を図りました。

◎平成28年度

○南区自治協議会だよりの発行

- ・第6号 平成28年 7月17日発行
- ・第7号 平成28年12月18日発行
- ・第8号 平成29年 3月19日発行 年3回

(3) 提案事業について

区自治協議会委員提案事業に対しては、地域課題の解決のために各部会で企画・検討から事業実施まで、区自治協議会委員が主体となり行い、今期は、地域活動団体と連携した事業を実施することで、「協働」の推進を図ることができました。

### 3 課題

#### (1) 諮問機関としての役割について

全体会での市や区からの報告事項について、委員の質問や意見に対して適切な応答ができるような準備・配慮をお願いしました。また、資料はなるべく事前の配布をお願いしましたが、会議までの短い時間の中で、選出団体に意見集約することはなかなか困難です。さらに多岐にわたる議事に対して、精通する委員が少なくなってきたため、的を射た意見になりにくい現状もあります。

また、この第5期から第1号委員の任期が最長6年となり、経験を重ねた委員により、区自治協議会が活発な意見の場となることが期待されましたが、その重要性が認知されず、コミ協選出委員の入れ替わりが続いたため、その役割を十分に果たせたとはいえません。今後、コミ協と区自治協議会の関係性を再検討しなければならないと考えます。

なお、委員研修によって、はじめて「諮問」「協働」の言葉を知る委員も多く、委員への研修も必要ですが、引き続き、市民一人一人が協働の意義や役割を知って行動する新潟市となるように、広める努力と工夫が必要です。

#### (2) 提案事業について

区自治協議会委員が主体となり委員自らが企画運営を行う事業については、今期は、地域のさまざまな団体と連携・協力することで、区自治協議会が目指すものを周知できるよう取り組みました。今後も、南区一体となって取り組まなければならない課題は多いため、さまざまな団体が参画し、独自の知恵とアイデアが結集する場ができることに期待します。

また、事業の成果を上げるためには、その方法・手段は常に委員により評価され、既存のものにとらわれることがないようにしたいと考えています。そのためにも今後も委員の運営だけでは足りない部分は、外部への協力依頼が必要であると思います。

#### (3) 外部会議への委員選出について

区自治協議会委員として、外部の組織・会議への出席を求められますが、その会議の構成員となることの意義を見直す必要があるのではないのでしょうか。

多様な選出団体から成る区自治協議会ではありますが、常に適切な人材を選出できるとは限らず、また本来その会議には必要な組織からすでに選出されているのではないかとと思われるものもあります。新潟市として全体を大きくとらえて、会議は必要な会議に絞り必要な人材に絞ることを検討してほしいと思います。

# 西区自治協議会(第5期)を振り返って

西区自治協議会会長 岩脇 正之

## 1 はじめに

近年、少子高齢化の進展やコミュニティの希薄化が指摘されるなど、地域を取り巻く情勢は絶えず変化を続け、地域課題が多様化・複雑化する中、これまで以上に区民と行政が協働し、きめ細かく地域課題に対応していくことが重要となっています。第5期西区自治協議会では、年4回の広報紙発行や区自治協議会提案事業を通じて、区自治協議会の存在の更なる発信を図りながら、区民と市との協働の要としての役割を発揮するよう、区自治協議会発足10年に際し、改めて、諸団体との連携を大切に各種活動を展開してきました。

区内に2つの四年制大学のほか、短期大学や専門学校を擁し、文教地区としての特長を有する西区では、平成28年度提案事業「商店街等活性化研究・実践事業」等において、世代を越えた交流活動として新潟大学及び新潟国際情報大学との連携事業に取り組みました。若者の意見を今後のまちづくりに活かしていく必要性を再認識するとともに、区自治協議会の活動に対する理解をより広める良い機会となりました。

また、平成28年度提案事業「高齢化をテーマにした講演会」では、西区役所主催の「本州東日本西区長サミット2016」と連携し、鎌田寛氏の基調講演及びパネルディスカッションから「協働」についての基礎や筋道を探り、各政令市西区の地域活動の多くの実例にも触れ、今後の新潟市西区における支え合い活動の取組の参考とすることができました。

## 2 取組内容・成果

### (1) 本会について

#### ア 活動の活発化

- ・区自治協議会活動の基本は区民との協働の要であることを、各委員が深く認識して区民の参画、協働の意識向上に努めることが大切であると確認できました。

- ・西区自治協議会委員36名(うち21名が新任委員)で第5期の活動がスタートし、区自治協議会の委員としての力を発揮できるよう前期に引き続き「区自治協議会オリエンテーション」が開催されました。

- ・第5期では、前期当初より2名上回る計14名の女性委員からの参画を得たほか、2名の学生委員からも参画いただくことなどにより、議論の多様化、活性化に取り組みました。

・地域コミュニティ協議会選出委員をはじめ、各委員がそれぞれの立場において、地域と区自治協議会を結び、今後の地域活動へ活かしていくことを意識し、地域代表としての役割を果たすよう努めました。

#### イ 区自治協議会委員の成長を図る西区独自の「区自治協議会委員研修」開催

「自治の深化に向けて」の施策の中で H26 年度からスタートした区自治協議会独自の研修会が年 1 回開催され、委員のスキルアップ・意識向上に結びつきました。地域課題の中でもとりわけ福祉に関することが重要な位置づけとなり、地域包括ケアシステムの話題が欠かせない情勢となっている昨今、早期に解決の糸口を模索すべく意見交換等を行い、今後の地域づくりへの取組がより明確となりました。

#### ウ 区自治協議会提案事業の取組

平成 27 年度の 5 つの事業と平成 28 年度の 6 つの事業は担当部会の活発な活動により全て予定通り実施され、多くの区民に喜ばれました。

#### エ 西区自治協議会広報紙の発行

区自治協議会の活動を広く区民に周知し、認知度を上げる目的で、「西区を豊かに」を第 5 期期間中に 8 回発行しました。特に各部会が取り組んで区民・市民から喜ばれた提案事業を継続して掲載し、区自治協議会の存在を知らせることに貢献できました。また、読者意見により左綴じに変更したことでファイリングしやすくなった等、双方向の紙面づくりに努めました。(読者から寄せられたご意見・感想等 H28 年度 1 月号分：318 件、H29 年度 1 月号分：329 件)

### (2) 部会について

- ・ 3 つの通常部会、2 つのプロジェクトチームの特別部会に編成され、全委員がいずれかの部会に所属して積極的に発言がなされ、部会活動を通じて区自治協議会委員としての自覚を高め、役割を発揮することに結びつきました。
- ・ 各部会の独自課題をはじめ、「特色ある区づくり事業」「区自治協議会提案事業」についても活発に議論がなされ、個別の事業に自主的、積極的に取組む面で前進が図られました。
- ・ 区自治協議会活動の基本はあらためて各部会が「基礎＝土台」であることが確認できました。

### (3) 提案事業について

#### ア 第 1 部会(防犯、防災、自然環境、住環境、その他西区自治協議会が定めるもの) 【成果】

## ○防災に関する公開授業

- 平成 27 年度は、危機管理教育研究所の国崎信江氏をお迎えし、真砂小学校・五十嵐小学校の 5・6 年生、五十嵐中学校の 1 年生の他、地域の方々や保護者を対象に、講演会形式で防災に関する公開授業を実施しました。地震や津波からの防災について映像を用いて具体的な手法を学ぶことで、児童の防災意識の向上や、家庭で防災を考えるきっかけとすることができました。
- 平成 28 年度は、青山小学校と中野小屋中学校で防災に関する公開授業を実施しました。青山小学校では、浦山地区・有明地区合同防災訓練と連携して実施することとし、5・6 年生の他、防災訓練に参加した地域の方々や保護者を対象に、危機管理教育研究所の国崎信江氏から地震や津波からの防災について、講演会形式で学びました。講演後に防災訓練を受けることで、さらなる防災意識の向上に繋がり、また、地域での防災を考えるきっかけをつくることができました。中野小屋中学校では、災害時に中越防災安全推進機構の講師をお迎えし、1～3 年生の他、地域の方々や保護者を対象に実施しました。中学生は災害時に実働を担うことも多いことから、成長段階に応じた学年別のワークショップや避難所の運営を想定した全体でのワークショップを通して、より具体的な内容について学ぶことで、生徒の防災意識の向上や地域としての防災を考えるきっかけとなりました。

## 【課題】

- 東日本大震災発生以降、地域課題としてますます重要度が高まった防災に関して提案事業を実施してきたため、防犯等の他の分野に関する事業を実施することができませんでした。他の分野における地域課題についても議論を深め、その時代に合った重要な課題に焦点をあてて、課題解決に繋がる事業を審議していく必要があります。

## イ 第 2 部会(保健福祉、文化、教育、その他西区自治協議会が定めるもの)

### 【成果】

#### ○高齢化をテーマにした講演会事業

- 平成 27 年度「白澤卓二講演会」では、認知症をテーマに、アンチエイジングで著名な白澤卓二順天堂大学教授をお迎えし、手軽に日常生活でできる認知症予防実践策の紹介を通じて、高齢者が目標をもち楽しく 100 歳の健康長寿を目指していただくきっかけとなるよう取組を行いました。また、当日会場では、食生活改善推進委員との連携により、講師監修の健康スープの試食提供を行ったほか、レシピや減塩チラシの配布を行うことで、講演内容だけでなく、生活習慣づくりの実効性を高めることができました。
- 平成 28 年度「鎌田實講演会」では、地域包括ケアをテーマに、地域医

療を通じて様々な助け合い活動の実践者である鎌田實諏訪中央病院名誉院長をお迎えし、地域で命を支えるとは何か、地域に求められることは何かを具体的な事例により紹介いただき、西区における助け合い活動実践へのきっかけとなるよう取組を行いました。また、区役所と連携し、政令市西区長らが集い、地域包括ケアシステムの構築に向けた取組について、事例発表等により情報共有と検討を深める「本州東日本西区長サミット2016」と併せて実施することで、基調講演の趣旨をパネルディスカッションにより更に深め、実効性を高めることができました。

### ○スポーツ鬼ごっこ普及啓発事業

- 平成 27 年度は、地域での活動の裾野が広がるよう、指導ができる 3 級ライセンス取得者の増加に向けた講習会・見学会を実施し、スポーツ振興会やスポーツ推進委員、地域コミュニティ協議会など、地域で活動を行う方々から参加をいただき、普及啓発の土台づくりを行うことができました。また、本講習会の開催を通じて、スポーツ鬼ごっこの普及推進に向けて活動を行う任意団体「Oni Base Niigata」の発足を支援することができました。
- 平成 28 年度は、まだスポーツ鬼ごっこを知らない多くの子どもたちに直接魅力を感じてもらえるよう、区民をはじめ約 7 千人もの方々が来場する「ふれ！ふれ！西区ふれあいまつり」において体験会を開催することで、参加者をはじめ、その他多くの来場者にスポーツ鬼ごっこを認知してもらうことができました。また、西区かがやき大使を活用して PR を行うことで、広くメディア掲載されるなど、スポーツ鬼ごっこの取組について一層の周知を図ることができました。なお、実施にあたっては、昨年度に発足を支援した推進団体「Oni Base Niigata」と協働して運営を行い、普及活動の裾野を広げることができました。

### 【課題】

- 保健福祉、文化、教育など所掌分野の幅が広く、2 力年を通じて複数の提案事業の実施に取り組んだものの、文化、教育などの分野の取組が不足しました。提案事業の実施にあたり、民間事業者への委託や、他団体との協働などにより効率化を図るとともに、その根底となる地域課題の議論を深め、部会活動としてバランスを図っていく必要があります。
- 大きな地域課題として高齢化を捉え、地域包括ケアシステムや認知症予防など講演会を実施してきましたが、少子高齢化、特に少子化の問題に取り組むまでに至ることができませんでした。  
地域包括ケアシステムの構築や健康寿命の延伸に向けて、高齢化問題に引き続き取り組んでいくとともに、少子化に対し議論を深め、区自治協議会として取組、審議していく必要があります。
- 子どもからお年寄りまで年代や性別を問わず、誰もが楽しめるスポーツ

として、講習会や体験会の実施により、提案事業を通じて普及啓発の取組を進めてきました。ニュースポーツの定着には、きっかけと継続が必要となりますが、地域でスポーツ鬼ごっこの自主的活動が広がるよう結実させていく必要があります。

### ウ 第3部会(農林水産業、商工業、交通、その他西区自治協議会が定めるもの)

#### 【成果】

##### ○西区特産品・観光地カレンダー

- 平成27年度より、区の特産物の消費や交流人口拡大のために、区の特産物や観光地の写真とキャラクターを用いたカレンダーを作成しました。
- キャラクターの制作は、新潟大学の学生に依頼し、また掲載写真を公募することにより、文教地区の特色を活かしつつ住民と一体となって制作された魅力あるカレンダーとすることができました。
- 区民に向けて区内の市公共施設やイベントで配布するとともに、2年目からは区外でもPRを行うため、区外の市公共施設や原宿表参道ネスパス等で配布を行い、県外在住者のアンケートにおいて「西区に行ってみたい」との意見もいただき、交流人口の拡大にも期待がもてる広報媒体とすることができました。

##### ○商店街等活性化研究・実践事業

- 地域性を把握する区内の新潟大学、新潟国際情報大学と連携し、内野拠点商業地の活性化に向けた調査・研究を行い、「若者文化を取り入れた集客に繋がるイベントの定期開催」「空き店舗の活用による地域の情報発信、交流の場創出」といった学生の柔軟な発想を取り入れた企画書を作成しました。
- 内野地域でまちづくりを行う人材の発掘・育成を目的とする西地区公民館の「うちの発掘ぶろじゅくと」と連携し、商店街・商工会を始めとした多くの関係者に向けて企画提案を行うことで、地域課題としての認識を深め、今後の審議のきっかけづくりとすることができました。

#### 【課題】

- 次期も引き続き取り組んでいく商店街等活性化研究・実践事業は、研究を踏まえた実行の段階に移行するため、大学の研究チームだけではなく、地域とともに取組、将来的には地域が主体となって取り組んでいけるように実践・研究をしていく必要があります。また、成果を検証した後は、黒埼地域拠点商業地の活性化についても審議していく必要があります。

### エ プロジェクトチーム2(西区アートフェスティバルの企画・実施に関するもの)

#### 【成果】

### ○西区アートフェスティバル開催事業

- 平成27年度(第3回)は、テーマを「音楽の力、西区の宝」とし、西区で活動している音楽・芸能分野の団体の発表の場として提供することができました。来場者アンケートにおいて、高い満足度と次年度実施への期待の声を多くいただきました。

来場者：755人(延べ人数)

- 平成28年度(第4回)は、テーマを「区民の力、地域の宝」とし、音楽・芸能分野の発表ではプロによる特別奏者も取り入れたことで西区の文化の向上を図ることができました。また、あわせて西区にちなんだ多様なアート作品の展示も行い、多くの区民に喜ばれました。

来場者：846人(延べ人数)

#### 【課題】

- 区自治協議会提案事業として西区アートフェスティバルの開催を継続し、音楽・芸能分野の発表及びアート作品の展示をテーマとした「西区の宝」を発信・共有する場としてさらなる一体感の醸成を図っていく必要があります。
- 来場者が特定の年齢層に片寄らないよう、また事業がマンネリ化しないよう、新規の企画内容を盛り込む等、工夫する必要があります。

### 3 課題

- 提案事業の企画・実施に注力し大きな成果を得た一方、その他重要な地域課題について十分に審議する時間を確保することが困難でした。区自治協提案事業は、区づくり事業の一翼を構成するものであり、今後は一層、区役所の各専門部署から積極的に関わっていただくことで、事業内容の充実や連携が図られ、より幅広い観点で地域課題の検討を行うことができるものと思います。
- 西区自治協議会においては、第1期当初より大学生から参画していただいているものの、若い世代の委員参画は少なく、幅広い年代からの区自治協議会に対する認知度は高くない状況にあります。区自治協議会発足10年を迎え、区自治協議会が区民により一層理解していただけるよう、引き続き幅広い世代の知見を活かした活動、区民への発信について取り組んでいく必要があります。
- 部会活動及び審議の活性化に伴い、費用弁償の支給回数の上限に達するケースが複数生じました。第5期においては、部会の構成数を見直し、集約的な議論が行えるよう取組んだところですが、引き続き、地域課題に即した委員の自主的な議論により多様な意見の調整及びとりまとめが行えるよう、体制を整備していく必要があります。

# 西蒲区自治協議会(第5期)を振り返って

西蒲区自治協議会会長 大倉 繁宏

## 1 はじめに

西蒲区では、老朽化する庁舎の改築に向けた意見が区自治協議会委員からも出て、平成28年10月からは区自治協議会委員や市議らで区役所に必要な機能などを勉強するため、西蒲区役所庁舎整備勉強会も行われるなど、着々と新庁舎の整備に向けた準備も進んでいるところです。

また、区自治協議会も政令市移行と同時にスタートし、10年の節目を迎えるにあたって、市の各区自治協議会の会長が会して、区自治協議会のあり方・役割を改めて確認・整理し、第5期会長一同として「区自治協議会のさらなる活性化について」とした文書を各区自治協議会委員へ発出し、西蒲区でも区自治協議会に期待される役割や「地域代表としての役割」を果たすための委員の心構えなどについて改めて共有しました。

このほか、西蒲区では第6期に向けた委員改選にあたって、福祉や教育など専門的な知識を有する地域人材からこれまで以上に関わってもらうことで、区自治協議会の活性化、地域の課題解決につなげていくために、公共的団体等の選出者である第2号委員の枠を6枠から10枠にするなど、委員構成の大幅な見直しを行い、更に活性化した体制で船出ができるよう準備を行いました。

## 2 取組内容・成果

### (1) 全体会について

#### ア 視察研修の実施

平成27年度は、水産業の現況と区内の課題を抱える施設の状況の視察を行い、課題解決に向けた検討を行いました。また、平成28年度は近年多発する災害に対応するため、洪水対策施設や排水対策施設の視察を行い、現状の区内の対策状況について確認し、現況に対する理解を深めました。

#### イ 西蒲区自治協議会通信「じちきょう」の発行

区自治協議会の役割や活動について区民の皆さまに知ってもらえるよう各年度10月および3月にそれぞれ広報紙を発行し、多くの方から区自治協議会の取組などについて知っていただくことができました。

#### ウ 女性の参画による活性化

第5期は各地域コミュニティ協議会からの選出委員を2名ずつ、うち1名は女性としたことで区自治協議会での女性比率が上がり、女性からの活発

な発言により、特に部会での議論が活性化しました。

## エ 議会報告会で市議会議員とワークショップ

平成 27 年度には、議会報告会で市議会議員と、にいがた未来ビジョン(新潟市総合計画)を実現するため、いくつかの課題の中から「公共交通のあり方」、「少子化対策」、「中心市街地の活性化」をテーマとしたワークショップを行い、課題解決に向けた方策の検討を行い、課題の解決策を提案しました。

## オ 市長と次年度の新潟市政の展望について懇談

新潟市長から次年度の新潟市政の展望について、市の施策などについて話を聞いたあと意見交換を行い、どのようにしていったら西蒲区がより良くなるのかなどの提案をしました。

## (2) 部会について

### ア 総務部会

教育・生涯学習、文化・スポーツ、公共交通、防犯・防災にかかる地域課題などの検討を行う部会です。「地域と学校との連携について」をテーマに区教育ミーティングを行い、教育委員や教育委員会と学力向上や教育を取り巻く諸問題について懇談したほか、教育現場との連携強化について検討するため実際に中学校を訪問し、意見交換を行い連携強化の方策を研究しました。

### イ 保健福祉部会

福祉、環境にかかる地域課題などの検討を行う部会です。第 5 期では、進行する少子高齢化への対策を中心に検討を行い、課題に対応する事業を実施しました。

### ウ まちづくり・産業部会

まちづくり、農業、商工業、観光にかかる地域課題などの検討を行う部会です。第 5 期では、まちの活性化や観光の活性化に向けた取組を中心に検討を行い、課題に対応する事業を実施しました。

### エ 広報部会

西蒲区自治協議会通信「じちきょう」を発行し、区自治協議会の活動を広報するため、広報部会を設置しました。第 5 期では「区民の皆さんから読んでもらえる広報紙づくり」をテーマにそれまでの広報紙のレイアウトや発行形態を一新し、各年度 2 回の広報紙発行を行い、多くの人から区自治協議会の活動を知っていただきました。

### オ 調整部会

平成 28 年度に各部会間の意見や予算の調整を行うため、正副会長と各常任部会の正副部会長で構成する調整部会を設置しました。地域団体から事業

企画を募る「いきいきコミュニティ事業」の応募要件などの検討を行ったほか、区自治協議会提案事業の各部会間の予算調整を行い、区自治協議会の円滑な運営に努めました。

### (3) 提案事業について

#### ア 総務部会提案事業

##### <平成 27 年度>

##### ・西蒲区展開催事業

文化・芸術活動における区の一体感醸成を図るため、区内の各地区で行われている文化活動の成果を一堂に会す「西蒲区展」を開催しました。西蒲区展開催をきっかけに、西蒲区美術協会が設立され、今後は美術協会が主体となり、自主運営で美術展覧会の開催を目指していくことになりました。

##### ・地域紹介パンフレット作成事業

西蒲区をより一層知っていただくため、これまであまり有効に使われていなかった西蒲区ガイドブック「四季彩国」の内容を修正、増刷しました。多くの施設に設置し広く西蒲区のPRを行い、多くの区民の方からも西蒲区の魅力を再発見していただけたと思います。

##### <平成 28 年度>

##### ・西蒲区PR事業

初開催となった角田山一周ハーフマラソン大会において、平成 26 年度特色ある区づくり事業で開発した「おむすびだんご」を参加者へのおもてなしとして配布したほか、前年度総務部会で手掛けた西蒲区ガイドブック「四季彩国」も併せて配布し、西蒲区の魅力を広くPRしました。

#### イ 保健福祉部会提案事業

##### <平成 27 年度>

##### ・高齢者見守り活動事業

認知症があるなどの高齢者等が、徘徊、迷子及び行方不明になったとき、早期発見につなげ、高齢者等の安全確保と家族を支援するため、「見守りキーホルダー」を作成・配布しました。キーホルダーは、募集当初から 400 件を超える区民の方から申請いただき、平成 28 年度からは区役所実施事業に引き継ぎ、継続実施しています。

##### <平成 28 年度>

##### ・西蒲区は一とふる事業

結婚から子育てへの切れ目のない支援を図るため、結婚を希望する男女の出会いを創出するイベントのほか、子育てに関する不安を軽減するきっかけづくりとなる講演会を実施しました。婚活イベントでは、男女各 15 名の参加者の中から 5 組のカップルが誕生しました。

## ウ まちづくり・産業部会提案事業

### <平成 27 年度>

#### ・地域公共交通サポート事業

公共交通の利用率向上のため、区内の公共交通の総合的なガイドを作成し全戸配布を行いました。ガイドに観光案内も入れたことから、区外の方も利用できるようなガイドブックとなり、バス利用者からご好評をいただきました。

### <平成 28 年度>

#### ・西蒲区PRスタンプラリー事業

区内の各地域のイベントなどを巡ってスタンプを集めると西蒲区の名産品などの景品が当たるスタンプラリーを実施し、区内外に西蒲区の魅力をPRし、区外の方からも多数ご応募いただきました。

## エ いきいきコミュニティ事業

平成 27 年度から地域団体に地域課題の解決につながる事業企画を募集、応募のあった中から優れた事業を採択し、各団体に実施していただく「いきいきコミュニティ事業」を始めました。

### <平成 27 年度採択事業>

#### ・若者ふれあい事業「婚活」

カーブドッチ薪小屋を会場とした交流パーティのほか、男性向けに身だしなみや話し方のコツを伝授する事前セミナーを峰岡地区コミュニティ協議会が行いました。交流パーティでは男性 23 名、女性 25 名から 7 組のカップルが誕生しました。

#### ・角田地区未利用バイオマス資源活用による集落環境改善支援事業

角田地区の未利用バイオマス資源のリストアップと活用の検証が行われ、集落環境の改善が角田地区バイオマスコンバーターにより図られました。

### <平成 28 年度採択事業>

#### ・越前浜いきいき活性化事業

U・Jターンによる移住地として注目される越前浜地区で、地域の魅力の映像化と発信を越前浜盆踊り保存会が行いました。今後、多くの方に地域の魅力が発信されるよう期待されるところです。

#### ・角田山麓観光化まちづくり事業

観光資源として期待される角田山麓の活かし方の検討がなされ、電動自転車で角田山麓の名所を巡るイベントが実施されたほか、サイクリングマップの制作を峰岡地区コミュニティ協議会、松野尾地域コミュニティ協議会、角田地区コミュニティ協議会が行いました。サイクリングマップを活かした観光の活性化が期待されます。

### 3 課題

西蒲区自治協議会の第5期では、各地域コミュニティ協議会からの選出委員を2名ずつ、うち1名は女性としたことで区自治協議会での女性比率が上がるとともに、女性からの活発な発言により、区自治協議会および部会が活性化しました。一方で、幅広い分野から区自治協議会に参画いただき、さらなる活性化を図っていかうとしたときに、委員数30名を9コミ協の18名が占める状況では、本来区自治協議会に参加いただきたい団体や学識経験者の方に入っていないという問題も生じています。

また、前期においても課題とされていましたが、各常任部会では区自治協議会提案事業の事業内容の検討や事業の実施にほとんどの時間が費やされ、本来区自治協議会が行うべき地域課題の検討を行うことができない状況も生じています。

そのほか、西蒲区の奥ゆかしい地域性によるものなのか、部会での議論に比べ、全体会議で発言する委員が少なく、一部の委員に偏っているなどの課題もあります。

平成29年度以降は、市で検討委員会を立ち上げ、区自治協議会のあり方、委員構成、委員任期等の一体的な検討が行われる予定とのことですので、そこで区自治協議会のさらなる活性化の方策が定まっていくことを期待します。

# 新潟市区自治協議会(第5期)を振り返って

最後に、全市で行った取組内容と課題について、以下のとおりまとめます。

## 1 取組内容について

○平成27年度

項目	区自治協議会委員の年齢の下限値を変更
内容	「満20歳以上」から「満18歳以上」に変更
背景・理由	公職選挙法改正に伴い、新潟市附属機関等に関する指針の改正

項目	区自治協議会委員推薦会議の構成員の変更
内容	「第4号委員(全員)と第1号委員で10人以内」から「第1号委員6人と第2~5号委員各1人で10人以内」に変更
背景・理由	<ul style="list-style-type: none"><li>・公募委員の再応募に伴う推薦会議の辞退(交代)を無くす。</li><li>・地域代表である第1号委員を中心とした構成</li><li>・第2号から第5号委員のバランスを考慮した構成</li></ul>

○平成28年度

項目	専門的な地域人材の例示の追加について
内容	区自治協議会運営指針における例示の追加 【公共的団体等の例示に追加したもの】 <ul style="list-style-type: none"><li>・区支え合いのしくみづくり会議</li><li>・区社会福祉協議会</li><li>・区民生委員児童委員協議会</li><li>・大学</li></ul> 【学識経験者の例示に追加したもの】 <ul style="list-style-type: none"><li>・地域教育コーディネーター</li></ul>
背景・理由	区自治協議会のさらなる活性化に向けて、福祉、教育など専門的な知識を有する地域人材からこれまで以上に関わっていただく。

項目	公募委員数の下限値撤廃について
内容	公募委員について、「総委員数の10%以上を選任するものとする」から「必ず選任するものとする」に変更
背景・理由	専門的な地域人材の参加に関連して、公募委員の定数を区の実情にあわせて柔軟に決められるようにする。

項目	区自治協議会のさらなる活性化について
内容	「地域代表としての役割」を果たすための委員の心構えを示した文書(本資料最終ページに掲載)を「新潟市区自治協議会第5期会長会議一同」名で発出
背景・理由	区自治協議会の審議内容を地域へ帰って報告すること、地域課題等を委員間で情報共有することにより、今後の地域活動へ活かしていくことが期待されている。「地域代表としての役割」をこれまで以上に果たしていただくよう意識啓発を図る。

## 2 課題について

第5期においても、会長会議で議論を行い、各区自治協議会に報告を行ったうえで、上記の取組内容に記載のとおり不断の見直しを行いました。このことによって、区自治協議会がさらに活性化していくものと考えています。

しかし、区自治協議会をとりまく課題はまだ残っています。今期では、地域コミュニティ協議会選出委員(第1号委員)が地域の代表者としての発言ができていないのではないかと声を受けて、当該委員の任期についても議論を行いましたが、今後の検討課題として引き継がれることになりました。

また、区自治協議会は、平成29年4月に、設置後10年の節目を迎えます。これを機に、区自治協議会の役割や必要性について改めて検討すべきではないかという意見がありました。市民と市との協働を推進し、地域課題の解決を図っていく仕組みである区自治協議会のあり方について、第6期においてはさらに議論を深めていただきたいと考えています。

今後も、市民と市とが協働して、地域のまちづくりや課題解決に取り組み、新潟市の住民自治が推進していくことを期待しています。